

平成27(2015)年度

東洋大学 自己点検・評価

評価の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や
「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、
S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、
根拠資料で証明されている。
A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

部門名 : ライフデザイン学部 生活支援学科 子ども支援学専攻

(1)理念・目的

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないと判断したため、第3期認証評価の評価項目の決定までは、毎年の自己点検・評価は実施しないこととした(平成27年7月10日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。	
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
	個性化への対応	5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。					
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	「履修要覧」 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の「教育研究上の目的」も検証している。			
		新	理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・「建学の精神」 ・「大学の理念」 ・人材養成に関する目的 ・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・専攻会議議事録 ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート ・新入生アンケート	子ども支援学専攻では、毎年卒業生アンケートや次年度のHP作成時の専攻会議、また新カリキュラム作成時や法令改正時等に専攻の理念や目的を専攻会議にて再検討し、必要に応じて各種委員会や教授会の審議を経て、カリキュラムやシラバス、課程表や履修要覧・HP等に反映している。今年度は専攻会議や専攻独自の新カリキュラム検討会で3つのポリシーや新カリにに関する意見交換会を何度も行い、3つのポリシーの見直しを行った。検証結果に関しては、次年度以降のシラバスや新カリキュラムに反映されている。	S		

(3)教員・教員組織

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。		※1と同様	
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則	子ども支援学専攻では大学設置基準(文部科学省)、児童福祉法施行規則による「保育士養成における必修科目の6系列の専任教員配置」(厚生労働省)及び幼稚園教諭の教職課程認定審査基準を満たすために「教職の意義等に関する科目の専任教員配置」(文部科学省)に基づき教員組織が編制されており、各教員は採用時には大学や学部学科の目標や理念を把握している。教育に当っては全員が専攻の教育目的を共有し協働できる体制を整えており、本年度「教員組織の構成方針」を検討し、定めた。	S		
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・講義要項 ・教員組織表 ・契約制雇用契約書	教員の募集・採用に関しては、大学や学部の規則に則って行われており、候補者の推薦は専攻会議によって決められている。また、昇格に関しては教授による会議で内容確認をした上で、規定の手続きのとおりに行われている。助教の採用に関しても、規定のとおりに行われている。			
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。		※1と同様	
		19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・教員採用の基本方針 ・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	子ども支援学専攻の専任教員11名中6名が教授である。 学部教員全体の年代比率は、 ～30歳:0.0%(0) 31～40歳:1.8%(1) 41～50歳:35.1%(20) 51～60歳:33.3%(19) 61歳～:29.8%(17) となり、若干、年代に偏りがみられる。	20はB 21はA	カリキュラムや専門性、定年制が絡んでおり、改善は困難である。	
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。		子ども支援学専攻では大学設置基準(文部科学省)、児童福祉法施行規則による「保育士養成における必修科目の6系列の専任教員配置」(厚生労働省)及び幼稚園教諭の教職課程認定審査基準を満たすために「教職の意義等に関する科目の専任教員配置」(文部科学省)に基づき教員組織が編制されているため、教育上最適な教員編成となっている。			
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。					
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。		※1と同様	

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。 毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。		※1と同様	
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。					
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、「教員活動評価」制度の導入を進めており、平成27年度については2回目のトライアル実施を行う予定である。			
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
		新	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	子ども支援学専攻は専攻会議で採決されたものを学部の各種委員会や教授会に提出して検証し、不都合があった場合には専攻会議で再検討して改善している。	A		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期		
1)教育目標に基づき学位 授与方針を明示している か	学士課程・修士課程・博士 課程・専門職学位課程の 教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関す る規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を「教育研究上の目的 の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1と同様			
	教育目標と学位授与方針 との整合性	※ 28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。				S	
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している か。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	子ども支援学専攻は保育士養成校であるため、ディプロマ・ポリシー は「社会福祉や幼児教育の十分な基礎の上に、保育士、幼稚園教 諭として地域子育て支援等社会貢献できるに足る知識と技能を修得 し、人権を尊重する倫理観を身につけること」であり学習成果も明確 であるため、教育目標である「保育を中心に、社会福祉の領域にも 及ぶ学習」とも整合している。 今年度は専攻会議や新カリキュラム検討会において十分な検討を 行い、ディプロマ・ポリシーをはじめ、3つのポリシーの見直しを行っ た。					
		修得すべき学習成果の明 示	30					ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果 が明示されているか。		
2)教育目標に基づき教育 課程の編成・実施方針を 明示しているか	教育目標・学位授与方針 と整合性のある教育課程 の編成・実施方針の明示	※ 31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。		※1と同様			
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロ マ・ポリシーと整合しているか。	・専攻 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	子ども支援学専攻では一般教養科目、生活支援の基本となる科目 の履修を基礎とし、保育士、幼稚園教諭の養成に沿った科目や社 会福祉士の受験に必要な科目を順次修得できるように配置しており 、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合した教育課程になってい る。 科目区別や必修・選択の別、単位数は規則に則った適正な設定をさ れている。 今年度は新カリキュラム検討会において、カリキュラムポリシー及び 教育目標・教育課程の見直しを行っている。				S	
	科目区分、必修・選択の 別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必 修・選択の別、単位数の設定が行われている か。							
3)教育目標、学位授与方 針および教育課程の編 成・実施方針が、大学構 成員（教職員および学生 等）に周知され、社会に公 表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカ リキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホーム ページ等によって知りうる状態にしており、か つ、その周知方法が有効であるか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	「履修要覧」及びホームページにて公表している。		※1と同様			
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリ シーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊 行物、ホームページ等によって知りうる状態に しているか。							
4)教育目標、学位授与方 針および教育課程の編 成・実施方針の適切性に ついて定期的に検証を 行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキ ュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証して いるか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の教育研究上の 目的や3つのポリシーも見直すこととしている。					
	新	教育目標、学位授与方針および教育課程の編 成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責 任主体・組織、権限、手続を明確にしている か。また、その検証プロセスを適切に機能さ せ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会 規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種 委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	教育目標や学位授与方針、教育課程編成の検討、3つのポリシーは 専攻会議や新カリキュラム検討会において意見交換会され決めら れているが、今年度は3つのポリシーについて見直しを行い、教育課 程編成に関しては検討中である。 専攻会議から、必要に応じて各種委員会や教授会に審議を求め るため、その検証プロセスや改善が適切に行われている。	S					

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『授業時間割表』 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表	教育課程上主要な科目、資格取得に必要な科目は全て開講されている。 教育課程は教養教育と専門教育の位置づけを明らかにし、かつ専門性や資格取得上の配慮の上に順次性を考慮した配置となっている。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。					
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。					
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。					
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表 ・該当科目シラバス	子ども支援学専攻では、社会福祉、児童福祉、保育、乳幼児教育などの分野に関する高い専門的知識、子ども支援に必要な技術の修得、子ども支援に関わる課題を自ら解決していける能力の育成につながるものとなっていること、諸資格の取得率、就職などからも、カリキュラム・ポリシーに従った学習成果を学生が修得していると考えられる。 「学士力」に対応するために、「知識・理解」の育成については、一般教養科目の人間探求分野・人間と生活理解／社会と自然の理解、文化間コミュニケーション分野等の授業科目が対応している。「汎用的技能」の育成については、「専門基礎英語」、「情報リテラシー」、「レポート・論文のまとめ方」等が対応している。「態度・志向性」については、「ライフデザイン学入門」、「生涯発達論」、「子育て支援実践」等が対応している。「総合的な学習経験と創造的思考力」については、1年次より4年間にわたり演習科目が配置されている。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。					
		新	教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・教育課程委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻では、カリキュラムポリシーや教育課程表、教育内容等を、カリキュラム改変時はもちろん、次年の教育課程表確認時の専攻会議や新カリキュラム検討会などで意見交換を行い、適宜検証しており、次年度に向けての実習体制の見直しや新カリキュラムでの2年次に秋学期ゼミを設ける等の改編が決定した。・カリキュラム等の変更があった場合は、専攻会議で決定されたものが教育課程委員会や語学委員会等の各種委員会や教授会に提出され審議され、公正を保っている。	A	更なる効果を期待するため、新カリキュラム検討会を定期に開催している。	

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・教育課程表 ・保育所運営ハンドブック ・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉士事関係法令通知集 ・東洋大学ホームページ ・各科目シラバス	実践的力量形成が求められる分野・領域については演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については実習科目を、適宜、配置している。 学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次より4年次まで、少人数によるゼミナールを必修としている。 講義科目の人数上限の目安は、200人としているが、一般教養的科目ではそれを超える場合もある。 子ども支援学専攻の教育方法はカリキュラム・ポリシーに従い、社会福祉、児童福祉、保育、乳幼児教育などの分野に関する高い専門的知識、子ども支援に必要な技術の修得、子ども支援に関わる課題を自ら解決していける能力の育成につながるものとなっており、教育成果としては保育士資格・幼稚園教諭免許・社会福祉士の受験資格等を取得し、保育士などの対人援助職に就く学生が多いことで証明されている。 保育士等資格養成科目においては、関係法規に則り、50名を上限とするコース設定を行なっている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。					
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。					
		履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定している(卒業要件外の科目を除く)。		※1と同様
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。 また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。 ・専攻教員全員が参加する子ども支援学専攻独自の「新カリに関する意見交換会」でも検討している。			
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。					
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・教育課程表	全学部・学科において、大学設置基準に沿って、各科目の単位数及び授業時間数を設定している。			
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。					
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・FD推進センター活動報告書	FD推進センター及びFD推進委員会において、組織的な研修、研究を定期的に実施している。また、各学部においても独自のFD活動が増加、充実してきており、その成果が毎年、「FD推進センター活動報告書」にまとめられている。			
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかにしているか。					
		新	教育内容・方法等の改善を図るための、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・東洋大学ライフデザイン学部履修要覧	今年度の子ども支援学専攻では3つのポリシーの見直しや新カリキュラム等について、専攻会議や新カリキュラム検討会で意見交換を行い、改善を図っている。 カリキュラムや教育方法、担当者等に変更があるときは、専攻会議で決定した後、各種委員会に上げ、教授会で了承を得ている。	A	新カリキュラム検討会などで、更なる改善のための話し合いを行う。	

「成果」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	子ども支援学専攻は保育士養成や幼稚園教諭免許、社会福祉士受験資格などの学習をしているため、免許取得率や国家試験合格率も教育内容・方法の一つ目安となっている。担当教員は学生の就職活動・就職状況や合格率等を分析し、自主ゼミや講習会等を行っている。 毎年、実習報告会を行い、学生の実習受け入れ先施設と意見交換会を行い、次年度に向けての参考にしている。 ただし、専攻独自の評価指標はない。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・『ソーシャルワーカーの基盤としてのアドボカシーセミナー』報告書 ・「施設職員とは」自主ゼミ				
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態になっているか。	・履修要覧	全学部・学科において、卒業要件を「履修要覧」に明示している。	S	※1と同様	
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・専攻 卒業要件 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻は保育士養成や幼稚園教諭免許、社会福祉士受験資格などの学習をしているため、免許取得率や国家試験合格率も教育内容・方法の一つ目安となっている。担当教員は学生の就職活動・就職状況や合格率等を分析し、自主ゼミや講習会等を行っている。 毎年、実習報告会を行い、学生の実習受け入れ先施設と意見交換会を行い、次年度に向けての参考にしている。ディプロマ・ポリシーと資格取得要件、卒業要件が重なる部分が多い。また、資格を取らない学生であっても3つのポリシーと教育目標等が一致しているため、卒業要件とディプロマ・ポリシーは一致している。 今年度は専攻会議や新カリキュラム検討会で3つのポリシーや教育目標・成果等を適宜検討している。			
		新	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	・専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規定 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻 卒業要件	子ども支援学専攻では学位授与にあたり、専攻会議で学生の卒業要件を確認したうえで、教授会にはかり、承認を得ている。	A		

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・東洋大学ホームページ ・専攻 アドミッション・ポリシー	子ども支援学専攻のアドミッション・ポリシーは、資格取得のみならず、習得した専門知識や技術を活かし、保育や幼児教育などの実践的な場で力を発揮しようとする強い意思を持った学生を受け入れることであり、大学のHP等にも記されている。			
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ ・「東洋大学アドミッション・ポリシー」	ホームページにてアドミッション・ポリシーを公表している。また、指定校推薦を依頼している高等学校等には、全学科のアドミッション・ポリシーを冊子化にまとめて送付している。		※1と同様	
2)学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか	学生募集方法、入学選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・「東洋大学入試情報」	ホームページにて、入試種別別に、募集人員、選考方法等を公表している。	B	※1と同様	
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・専攻会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻では毎年各種入試方式や定員等を入試結果やGPAを踏まえ専攻ながら会議で検討し、つねに専攻のアドミッションポリシーに合う学生が入学できるように入試方式や学生募集を工夫をし、より専攻の理念に沿った学生を確保するために広報委員会を中心にHPやパンフレットの見直しを毎年専攻会議で行い、受験生に周知できるよう努めている。			
	入学選抜において透明性を確保するための措置の適切性	66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。				※1と同様	
		64	学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・入学試験実施本部体制				
3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学者数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、入学者数の適正化に努めている。		※1と同様	
		※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。			A	今年度は103%であったため、次年度は注意が必要である。	
		70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・専攻会議議事録	子ども支援学専攻は保育士資格の関係で定員を超過することができないため、入学定員数に対する入学者比率は1.00を目標としている			
4)学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。		※1と同様	
		72	学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部提案している。これに基づき、各学科入試委員会を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			
	新		学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	子ども支援学専攻では学生の受け入れに関しては入試の結果をもとに入試委員会から専攻会議で検討して教授会に提案し、改善につなげている。	A		

(11)その他

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・哲学教育(東洋大学ホームページ) ・東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう考えるヒント300」 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ライフデザイン学部講義要項	各教員がシラバスにおいて哲学教育の基礎である「なぜだろうと自ら考えること」「自ら考えて実践できること」を教育内容に盛り込んでいる。また、ディプロマ・ポリシーにも「人権を尊重する倫理観を身につけること」と記されている。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・韓国現場研修会実施要項 ・ニュージーランド研修実施要項 ・ライフデザイン学部教授会議議事録 ・専攻会議議事録 ・提携先との協定書	希望学生を対象に、韓国現場研修会およびニュージーランド短期語学研修など、学部独自の事業を継続的に実施しているが、2年生は春休みに、3、4年生は夏休みに実習が入るため、時間的に難しい。	A	外国にルーツをもつ親子の子育て支援を行う予定である。	
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・ライフデザイン学部講義要項 ・『ソーシャルワーカーの基盤としてのアドボカシーセミナー』報告書 ・「施設職員とは」自主ゼミ	子ども支援学専攻では資格取得の道筋となるようなカリキュラムや、実践的な科目をそろえているほか、将来、社会福祉施設の職員として働くことを考えている学生を対象に、自主的な勉強会を開き、文献購読や施設見学や施設職員の講話などを通して、社会福祉施設の理解を深めるとともに、自分自身の進路を見据える活動もしている。また、ゼミ等で施設見学を行い、できるだけ学生に現場での経験をさせる努力をしている。また、卒業生へのリカレント教育や、卒業生と協働しての学生への現場教育も行っている。	S		

平成27(2015)年度

東洋大学 自己点検・評価

評価の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や

「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、
根拠資料で証明されている。

A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

部門名 : ライフデザイン学部 生活支援学科 生活支援学専攻

(1)理念・目的

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないと判断したため、第3期認証評価の評価項目の決定までは、毎年の自己点検・評価は実施しないこととした(平成27年7月10日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。	
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。					
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の「教育研究上の目的」も検証している。			
		新 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・「建学の精神」、「大学の理念」 ・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・専攻会議議事録 ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート・新入生アンケート	毎月実施される生活支援学専攻会議において各種委員会及び各コース会議の報告がなされ、学科教育に関する課題の協議が行われている。また、専門職養成の中核に位置づけられる実習教育について、実習施設・機関の指導者を交えた懇談会を開催し、実習報告会を2月に実施している。 実習教育のあり方についてコース会議で検討し、専攻会議へと議題を上程している。教育研究上の目的を含む3つのポリシーの検討と2017年カリキュラム見直しを行っている。生活支援学専攻会議で検討した内容は教育課程委員会に提出され学部全体と整合させて検証されているが、PDCAサイクルの構築にまでは至っていない。	B	責任主体や検証プロセス、PDCAサイクルの構築については今後検討する方針である。	

(3)教員・教員組織

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。		※1と同様	
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	明確にしている。教育課程の編成方針に合わせ、高度な知識を持った社会福祉専門職の育成のために必要な専門性を有する教員を配置し、教員組織を編成している。今後については、グローバル人材の確保について、学部方針に基づいて行うこととなる。臨床系非常勤講師については、適宜見直しを行っている。	A	改善にむけて検討する方針である	
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・講義要項 ・教員組織表 ・契約制雇用契約書	学部の目的と特質上、専任教員が中心となって教育研究体制を構築しており、任期制教員(助教)は実習担当を念頭に置き、また非常勤講師は科目に適合した採用を行っているが、契約制外国人教員に関する方針は特に定めていない。	B		
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。		※1と同様	
		19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。		生活支援学科専任教員の6名が教授であり、6/13であるため、教授数は半数に届いていない。	B		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・教員採用の基本方針 ・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準」	専任教員全体の年代比率は、 ～30歳：0.0%(0) 31～40歳：7.7%(1) 41～50歳：30.7%(4) 51～60歳：53.8%(7) 61歳～：7.7%(1) であるため、若干、年代が偏っている。	B	カリキュラム、専門分野、定年制とも絡んでいるので、早急な改善は困難であるものの、教員の補充等においては、年代比率を意識して改善を図りたい	
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		生活支援学専攻では、教育課程の編成方針に合わせ、高度な知識を持った専門職業人の育成のために必要な専門性を有する教員を配置し、教員組織を編成している。特に、教員を介護コース、社会福祉士、精神保健福祉士の3領域に分かれ、高度な専門職の養成教育を実施している。	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。		※1と同様	
3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。			
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。		毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。			

4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、「教員活動評価」制度の導入を進めており、平成27年度については2回目のトライアル実施を行う予定である。		※1と同様	
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
		新	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	教員組織の適切性を検証する独立した組織は設置していないが、専攻科長、教育課程委員を中心に専攻会議において検討している	B	改善にむけて検討する方針である	

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1と同様	
		※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。			
	教育目標と学位授与方針との整合性	29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	生活支援学専攻では、社会福祉の専門性を習得し、社会福祉士となることに加え、介護福祉、精神保健福祉や医療福祉など、幅広い分野での社会貢献を目指す学生を養成することを教育目標としているため、「福祉の専門職を養成する」というディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。		生活支援学専攻では、学生の進路に応じ介護福祉、精神保健福祉、あるいは医療福祉のいずれかに関しても、専門職として社会貢献できるに足る水準の知識と技能を習得するという修得すべき学習成果がディプロマ・ポリシーに明示されている。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。		※1と同様	
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・専攻 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	生活支援学専攻では、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士関連科目を系統的に配置するというカリキュラム・ポリシーが定められており、社会福祉の専門性を習得することを目指す教育目標や専門職としての社会貢献に足る水準の知識と技能を習得するといったディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。		生活支援学専攻では、カリキュラム・ポリシーに対応して、科目区分「一般教養的科目」「学部共通科目」「学科専門科目」を用意し、演習科目あるいは学科基幹科目を必修としている。各学科において、取得資格の養成に沿った科目を順次修得できるよう配置している。	A	適宜見直しを進める 適宜見直しを行っており、平成27年度も新カリキュラムの編成に合わせて修正している。	2017年カリキュラム

3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	「履修要覧」及びホームページにて公表している。		※1と同様	
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の教育研究上の目的や3つのポリシーも見直すこととしている。			
		新	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	生活支援学専攻会議において各種委員会報告がなされ、学科教育に関する課題の協議が行われている。現在、教育研究上の目的を含む3つのポリシーの検討と2017年カリキュラムの見直しを行っている。生活支援学専攻会議で検討した内容は教育課程委員会に提出され学部全体と整合させて検証されているが、PDCAサイクルの構築にまでは至っていない。	B	改善にむけて検討する方針である	

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『授業時間割表』 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表	生活支援学専攻では、一般的教養科目に加え、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士の国家試験受験に必要な指定科目を中心に、関連科目を系統的に配置するというカリキュラム・ポリシーに沿って、主要な授業科目はすべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。		授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、実習科目については、履修に必要な条件等を記載している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。		「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、『履修要覧』において示すとともに、新入生ガイダンス等で学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。		生活支援学専攻では、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士関連科目を系統的に配置するといったカリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっており、平成26年度実施の国家試験において、本学部の受験生の合格率が、社会福祉士が47.3%、精神保健福祉士の合格率が52.5%と、全国平均を上回るまたは遜色のない結果を出した。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表 ・該当科目シラバス	「学士力」に対応するために、「知識・理解」の育成については、一般教養科目の人間探求分野・人間と生活理解／社会と自然の理解、文化間コミュニケーション分野等の授業科目が対応している。「汎用的技能」の育成については、「専門基礎英語」、「情報リテラシー」、「レポート・論文のまとめ方」等が対応している。「態度・志向性」については、「ライフデザイン学入門」、「専門職論」等が対応している。「総合的な学習経験と創造的思考力」については、1年次より4年間にわたり演習科目が配置されている。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。		1年次に演習ⅠAとⅠBを必修として配置し、「ⅠA」は初年次教育、「ⅠB」は専門教育への導入教育と位置づけ、少人数で授業を実施している。 高大連携については、推薦入試で入学した学生を対象に事前学習の課題「課題論文、時事問題調査レポート」を出し、添削・指導を実施している。	A		
		新	教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・教育課程委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	専攻長の下、教育課程については、教育課程委員からの協提案、各教員からの発意により専攻内で適宜審議し、適切な対応を行っているが、PDCAサイクルの構築にまでは至っていない。 教育研究上の目的を含む3つのポリシーの検討と2017年カリキュラムの見直しを行っている。	B	適宜見直しを進める	

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・教育課程表 ・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集 ・東洋大学ホームページ ・各科目シラバス	双方向型の授業が望ましく、実践的力量形成が求められる分野・領域については演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については実習科目を、適宜、配置している。介護技術の習得については実技を、相談援助技術の習得についてはロールプレイ等の適切に実施して教育効果の向上に努めている。 学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次より4年次まで、少人数によるゼミナールを必修としている。 講義科目の人数上限の目安は、200人としている。 社会福祉士養成に係る相談援助実習関連科目は上限を20名としている。	A	適宜見直しを進める	
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。					
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。					
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定している(卒業要件外の科目を除く)。		※1と同様	
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。 また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・教育課程表	全学部・学科において、大学設置基準に沿って、各科目の単位数及び授業時間数を設定している。			
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。					
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。					
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・FD推進センター活動報告書	FD推進センター及びFD推進委員会において、組織的な研修、研究を定期的実施している。また、各学部においても独自のFD活動が増加、充実してきており、その成果が毎年、「FD推進センター活動報告書」にまとめられている。			
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。					
		新	教育内容・方法等の改善を図るための、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・東洋大学ライフデザイン学部履修要覧	専攻長の下、教育課程については、教育課程委員からの協提案、各教員からの発意により専攻内で適宜審議し、適切な対応を行っているが、PDCAサイクルの構築にまでは至っていない。	B	適宜見直しを進める	

「成果」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善策	改善時期
1)教育目標に沿った成果 が上がっているか	学生の学習成果を測定する ための評価指標の開発 とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するた めの評価指標を開発・運用し、教育内容・方法 等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	毎年学期毎に授業評価アンケートを実施して学生の学習効果の測定 を行っている。また、授業でリアクションシートを使用して学生の理解 度を測定する場合もある。各教員には授業評価アンケートの結果に 対する改善策の提出を求めている。但し学生側の評価の正当性、 適切性についてはさらに検討を要する。 各教員単位ではあるが授業評価アンケートにより、教育内容・方法の 改善に努めている。 入学時に、全入学生に、入学動機、学習目標および意欲等に関する アンケート調査を実施している。 卒業時に、全卒業生に、授業だけでなく学生生活全般についてのア ンケート調査を実施している。	A	適宜見直しを進める	
	学生の自己評価、卒業後 の評価(就職先の評価、 卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や 就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し ているか。					
2)学位授与(卒業・修了 認定)は適切に行われて いるか	学位授与基準、学位授与 手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りう る状態にしているか。	・履修要覧	全学部・学科において、卒業要件を「履修要覧」に明示している。		※1と同様	
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており 、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行 っているか。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・専攻 卒業要件 ・ライフデザイン学部教授会議事録	生活支援学科の卒業要件は4年以上(8セメスタ以上)在学し規定の 条件をすべて満たした124単位以上修得した学生であること。これら の学習により、生活支援学専攻は、社会福祉の専門職として社会貢 献できるに足る水準の知識と技能を習得できる能力と人権を尊重す る倫理観を身につけることが習得でき、卒業要件とディプロマ・ポリ シーは整合している。	A		
		新	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明 文化された手続きに従って、学位を授与してい るか。	・専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規定 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻 卒業要件	学位授与については、東洋大学学則の規定に則り履修要覧において 卒業要件を明示している。学生の修得単位の確認及び学位授与につ いては卒業判定教授会で審議しているが、各学科及び専攻での判定 は行っていない。	B	学科での確認を経て承認に至 るプロセスを確立する方針であ る	

(5) 学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・東洋大学ホームページ ・専攻 アドミッション・ポリシー	大学ホームページ、履修要覧等で教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準を明らかにしている。生活支援学専攻では福祉分野に強い関心を抱き、誠実に職務を担うことができる人材を求めているため、基礎学力のほか、理論的思考や問題意識、技術の習得や粘り強さが必要であることを記している。		適宜見直しを進める	
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ ・「東洋大学アドミッション・ポリシー」	ホームページにてアドミッション・ポリシーを公表している。また、指定校推薦を依頼している高等学校等には、全学科のアドミッション・ポリシーを冊子化にまとめて送付している。		※1と同様	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・「東洋大学入試情報」	ホームページにて、入試種別別に、募集人員、選考方法等を公表している。			
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・専攻会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	各方式とも、募集人員、選考方法を、「入試ナビ」および東洋大学入試サイトにて受験生に明示している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。		生活支援学専攻の入試方式は、社会事象を読み解くために必要となる基礎学力に焦点化して受験科目を設定している。また、入試形態別にみた卒後の就職動向推移を勘案し、専攻内で推薦入試枠の拡大も視野に入れ、継続審議を実施している。	A		
		64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。		※1と同様	
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67 学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学人数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入人数の適正化に努めている。			
		※68 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		※69 学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70 定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・専攻会議議事録	学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定の分析を行い、教授会に報告している。また専攻会議においても毎年検討している。	A		

4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。		※1と同様	
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部へ提案している。これに基づき、各学科入試委員会を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			
		新	学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・専攻会議議事録 ・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	左記各種会議に置いて適正かつ公平な審議を行っており、大きな問題は生じていないが、検証プロセスを適切に機能させるPDCAサイクルについては検討が必要である。	B	改善にむけて検討する方針である	

(11)その他

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・哲学教育(東洋大学ホームページ) ・東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう考えるヒント30」 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ライフデザイン学部講義要項	生活支援学専攻では、1年生対象の選択必修科目である「社会福祉学原論Ⅱ」において、哲学教育が意識されており、シラバスには、講義の目的として、「本講義では、福祉援助の臨床について、まずは、その実際を確認し、その上で、宗教や哲学などを参照しながら、原理的な根拠について説明できることを目標とする」と書かれ、到達目標には、「『臨床』をめぐる思想や哲学について説明できる」と明記されている。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・韓国現場研修会実施要項 ・ニュージーランド実施要項 ・ライフデザイン学部教授会議議事録 ・専攻会議議事録 ・提携先との協定書	本学部では、希望学生を対象に、韓国現場研修会およびニュージーランド短期語学研修など、学部独自の事業を継続的に実施している。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・ライフデザイン学部講義要項 ・『ソーシャルワーカーの基盤としてのアドボカシーセミナー』報告書 ・「施設職員とは」自主ゼミ	・生活支援学専攻では、もともと介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士といった国家資格を意識したキャリア教育を行っており、実習教育にも重点をおいているが、加えて、「介護福祉」「社会福祉」「精神保健福祉」「医療福祉」の各領域で「アドボカシーセミナー」を開催し、4年次生で学外インターンシップを行った学生たちの報告会と合わせて、それぞれの分野で本学を卒業して現場で活躍する卒業生を招き、シンポジウムや講演会を行い、さらには交流会を実施して、卒業生から第一線の実践について学ぶ機会を提供している。	A		
2)学部・学科独自の評価項目①	国家試験対策	100	教育・研究活動の中で国家試験対策を推進しているか。	「福祉士受験対策ニュース」vol.1～	生活支援学専攻では、社会福祉士の国家試験対策として、「生活支援学特別講義」をおいている。シラバスには、講義の目的として、「本科目は社会福祉士国家試験の受験を予定する者に対して、用語を中心とする受験で必要となる基礎的な知識を講義します。その上で毎回出題される確認問題により、この知識の習得を促します」と明記されている。	A	社会福祉士の国家試験対策講座を複数開催して、受験者の増加を図り、合格率アップを目指している。	

平成27(2015)年度

東洋大学 自己点検・評価

評価の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、
S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

部門名 : ライフデザイン学部 健康スポーツ学科

(1)理念・目的

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部、学科の現状には大きな問題がないと判断したため、第3期認証評価の評価項目の決定までは、毎年の自己点検・評価は実施しないこととした(平成27年7月10日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。	
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。					
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	「履修要覧」 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の「教育研究上の目的」も検証している。			
		新 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	「建学の精神」 ・「大学の理念」 ・人材養成に関する目的 ・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・学科会議議事録 ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート・新入生アンケート	年度末の卒業生アンケート、カリキュラム改訂の際に学科長、教育課程委員会を中心としたワーキンググループにより検討した上で、結果を年度内に学科会議に諮り、必要な改訂等を行っている。その内容は学科会議議事録として保存し、また履修要覧、HPIに反映させる形で公表している。	A		

(3)教員・教員組織

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。		※1と同様	
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	健康スポーツ学科の主要授業科目に関しては専任の教授・准教授が担当している。実験、実習、実技に関しては補助をする助教がいないために、TASAを採用して補助をしている。 保健体育の教育職員育成に関わる専任教員をH27年度より採用した。 教職必修科目である「水泳」について、H27年度より助教を採用した。	B	養護・保健に関する教育職員養成および国際化に対応できる専任教員を採用する	H28年度着任予定
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・講義要項 ・教員組織表 ・契約制雇用契約書				
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。		※1と同様	
		19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・教員採用の基本方針 ・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準」	健康スポーツ学科では、所属教員17名のうち教授は12名であり半数以上が教授である。 学部教員全体の年代比率は、 ～30歳:0.0%(0) 31～40歳:1.8%(1) 41～50歳:35.1%(20) 51～60歳:33.3%(19) 61歳～:29.8%(17) となり、若干、年代に偏りがみられる。 健康スポーツ学科のカリキュラムは身体に関する自然科学科目、身体運動に関わる文化・社会科学科目およびヘルスプロモーションの実際に関わる指導技術に関わる科目である。それらの科目で学科のコアになる科目の専任教員は適切に編成している。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。					
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。					
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。		※1と同様	
3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。 毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。			
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」				

4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、「教員活動評価」制度の導入を進めており、平成27年度については2回目のトライアル実施を行う予定である。		※1と同様	
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
		新	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	教員組織の適切性を検証する独立した組織は設置していないが、学科長、教育課程委員会を中心に学科会議において検討している。	A		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1と同様	
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。			
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	「小児から高齢者、障害者の健康の維持増進の支援に寄与できる人材の育成を教育目標」とし、ディプロマポリシーでは「身体活動やスポーツの機能的および社会・文化的側面に関する教育や研究の実践を担える者に学位を授与する」としており、教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。			
		修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。				
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。		※1と同様	
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	健康スポーツ学科のカリキュラム・ポリシーにおいて「健康づくりにつながる健康関連の科目や実習・実技を重視する」、「身体の構造やメカニズムを自然科学的に論究する科目や、スポーツ現象を人文・社会学的視点から学習する科目を開講」とし、その実現のために講義(38単位)、運動系実習(3単位)、実験系実習(2単位)を必修単位に設定しており、「教育や研究の実践を担える者」の養成を教育目標、ディプロマ・ポリシーにあげた内容と整合している。 健康スポーツ学科はカリキュラム・ポリシーに基づき、コアになる科目を必修科目とし個々の学生の進路希望あるいは専攻希望により選択科目を履修するように、必修・選択の別、単位数の設定が行われている。			
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。					
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法及有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	「履修要覧」及びホームページにて公表している。		※1と同様	
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の教育研究上の目的や3つのポリシーも見直すこととしている。			
	新	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	学科長、教育課程委員会を中心にワーキンググループを組織し、検討した結果を学科会議にて検証している。その結果は学科会議議事録に記載している。	A			

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『授業時間割表』 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表	主要な授業科目はすべて開講している。 授業科目を講義、演習・実習と系統だった履修が出来るよう、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。 履修要覧において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。					
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。					
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。					
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表 ・該当科目シラバス	教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。 学部全体として、「学士力」に対応するために、「知識・理解」の育成については、一般教養科目の人間探求分野・人間と生活理解／社会と自然の理解、文化間コミュニケーション分野等の授業科目が対応している。「汎用的技能」の育成については、専門基礎英語、情報リテラシー、レポート・論文のまとめ方等が対応している。「態度・志向性」については、ライフデザイン学入門、「総合的な学習経験と創造的思考力」については、健康スポーツ学科は3・4年次に配置されている演習科目および卒業論文が対応している。 健康スポーツ学科はH25年度より、新たに1年次春学期に演習科目（健康スポーツ学基礎演習Ⅰ）を配置し、「健康スポーツ学概論」と合わせて初年次教育・導入教育専門教育を行い、2年次対象に健康スポーツ学基礎演習Ⅱを開講し専門教育教育の導入を行っている。 高大連携については、推薦入試で合格した進学予定者に対して実施している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮（初年次教育、導入教育の実施等）を行っているか。					
		新	教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・教育課程委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	学科長、教育課程委員会を中心にワーキンググループを組織し、検討結果を学科会議にて検証している	A		

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期		
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・教育課程表 ・東洋大学ホームページ ・各科目シラバス	健康スポーツ学科は講義、演習、実習(実験を含む)、実技を適切に配置している。 学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次より4年次まで、少人数によるゼミナールを必修としている(25年度カリキュラムより1、2年次に基礎演習を配置)。 講義科目の人数上限の目安は、200人として、学年が上がる毎に少人数制となるよう配慮を行っている。健康スポーツ学科の実習、実技についても実習室の収容人数および実習用機器についても学生が主体的に授業に参加する工夫をしている。 教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A	※1と同様			
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。							
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。							
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定している(卒業要件外の科目を除く)。					
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。 また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。					
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。							
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。							
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・教育課程表	全学部・学科において、大学設置基準に沿って、各科目の単位数及び授業時間数を設定している。					
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。							
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。					
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・FD推進センター活動報告書	FD推進センター及びFD推進委員会において、組織的な研修、研究を定期的実施している。また、各学部においても独自のFD活動が増加、充実してきており、その成果が毎年、「FD推進センター活動報告書」にまとめられている。					
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。							
	新	教育内容・方法等の改善を図るための、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・東洋大学ライフデザイン学部履修要覧	学科長、教育課程委員を中心にワーキンググループを組織し、検討結果を学科会議にて検証している。その結果は学科会議議事録に記載し改善を促している。	A					

「成果」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員からはアンケート結果に対する改善方策の提出を得、冊子化して全教員に配付している。 卒業時に、全卒業生に対して授業だけでなく学生生活全般についてのアンケート調査を実施し、学科ごとの集計を行い学科会議にて学科の教育効果・就職の評価を行っている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。					
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	全学部・学科において、卒業要件を「履修要覧」に明示している。		※1と同様	
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー ・学科 卒業要件 ・ライフデザイン学部教授会議事録	卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに定めた「健康の維持・増進の支援に寄与できる人材の育成」のために必要な科目を習得した者に学位授与を行っている。	A		
		新	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規定 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科 卒業要件	学生の入学については学科会議あるいは学科の委任した入試委員および学科長の責任の下判断し、教授会にて最終決定を行っている。卒業に関しては組織的な決定は学科ではなく教授会にて実施している。そのプロセスは教授会にて定め、議事録に記載している。	A		

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・東洋大学ホームページ ・学科 アドミッション・ポリシー	健康スポーツ学科はアドミッションポリシーにおいて「現代人の豊かなライフ(Life:生命、生活、人生)の積極的創造に寄与したいという意欲を持った学生」を求めると定めている。			
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ ・「東洋大学アドミッション・ポリシー」	ホームページにてアドミッション・ポリシーを公表している。また、指定校推薦を依頼している高等学校等には、全学科のアドミッション・ポリシーを冊子化にまとめて送付している。		※1と同様	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・「東洋大学入試情報」	ホームページにて、入試種別別に、募集人員、選考方法等を公表している。	A	※1と同様	
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・学科会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	健康スポーツ学科は一般入試105名、センター試験入試35名、推薦入試40名に設定し、入学試験の選抜方法を受験生の多様なニーズに対応するようにしている(H28年度入試)。H27年度入試において、センター試験で4教科型、一般試験中期試験を増加し、受験生のニーズに合わせるべき努力を行っている。さらにH28年度入試では一般試験に4教科型、センター後期入試も加える予定である。			
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。					
		64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。			
		※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学者数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入者数の適正化に努めている。		※1と同様	
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲になっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・学科会議議事録	学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、教授会に報告している。また、学科会議においても毎年検討している。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。		※1と同様	
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部に提案している。これに基づき、各学科入試委員を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			
		新	学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	学科長、入試委員を中心に検討し、検討結果を学科会議にて検証し改善につなげている。その結果は学科会議議事録に記載している。	A		

(11)その他

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・哲学教育(東洋大学ホームページ) ・東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう考えるヒント30」 ・ライフデザイン学部履修要項 ・ライフデザイン学部講義要項	健康スポーツ学科の目的は「すべての人々の健康の維持・増進に関する理論と実践教育・研究」を行うためには多面的しかも根本的な人生観・世界観に関わる多様な物の見方・考え方で教育研究を行うことが必要である。すなわち、健康スポーツ学は自然科学、社会・人文科学から真実を導き出し、その真実を基礎に問題の発見能力や解決能力を高める教育・研究を行っている。このことが、東洋大学が目指す「哲学教育」であり、健康スポーツ学科の教育・研究でもある。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・健康スポーツ学科ホームページ ・ドイツ研修実施要項 ・韓国現場研修会実施要項 ・ニュージーランド研修実施要項 ・ライフデザイン学部教授会議議事録 ・学科会議議事録 ・提携先との協定書	国際化にとって、必須科目の一つとして語学教育がある。取り分け、世界共通語としての英語修得のために、25年度から1、2年次の英語教育において週2回の授業を必修科目として英語教育の充実を行っている。 20010年度よりドイツ語研修を実施した上でドイツ体育大学、総合型地域スポーツクラブ等の見学、授業参加を中心とした海外研修を実施しており、2014年度より授業科目と位置づけている ライフデザイン学部開設以来、韓国福祉協会と提携により「韓国現場研修」を実施している。韓国の福祉施設での介護体験、ホームステイ、西大門刑務所見学、長安大学学生交流など4泊5日で行っている。欧米諸国との国際化が中心になりやすいが、健康スポーツ学科では近隣の国との国際化をも重要視している。 2015年度よりニュージーランド研修は英語研修にスポーツ活動体験を加えた新たなプログラムを開始する	S	・2015年度よりニュージーランドで開催する英語研修にスポーツ活動体験を加えたプログラムをセブ島、カナダ等にも実施予定である	H28年度
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・ライフデザイン学部履修要項 ・Keep Active報告書 ・スポーツ倶楽部ASAKA報告書	健康スポーツ学科はキャリア教育として、3、4年次に「インターンシップ」、「健康産業施設現場実習」の科目を配置している。 授業以外に、地域中高齢者を対象に本学科の学生が自主運営(教員は毎回運営に関わるが)で「Keep Active」を実施している。健康スポーツの諸学問を基礎に学生が運営、スポーツ指導および健康チェックを行いキャリア選択一環として行っている。 同様に地域の小学生を対象としてバスケットボールおよびフットサルを指導するスポーツ倶楽部ASAKAを年間を通じて実施している。	S		
2) 学部・学科独自の評価項目①	教育成果の公表	100	卒業研究発表会の公開	・卒業研究発表会抄録集	健康スポーツ学科では、卒業研究発表会を下級生の運営・進行により実施している。これにより卒業研究発表者のプレゼンテーション能力の向上、下級生への啓発の機会となっている。	A	今後も継続する	
3) 学部・学科独自の評価項目②	地域貢献・実践活動	101	地域貢献、実践教育	・Keep Active報告書 ・スポーツ倶楽部ASAKA報告書	地域中高齢者を対象に本学科の学生が自主運営により健康教室「Keep Active」を実施している。健康スポーツ学科の学生が運営、スポーツ指導および健康チェックを行い実践教育の場となっている。 ・同様に地域の小学生を対象としてバスケットボールおよびフットサルを指導するスポーツ倶楽部ASAKAを年間を通じて学童期の子どもに対する実践教育の場を運営している。			

平成27(2015)年度

東洋大学 自己点検・評価

評価の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や
「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、
S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、
根拠資料で証明されている。
A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

部門名 : ライフデザイン学部人間環境デザイン学科

(1)理念・目的

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないと判断したため、第3期認証評価の評価項目の決定までは、毎年の自己点検・評価は実施しないこととした(平成27年7月10日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。	
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
	個性化への対応	5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。					
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の「教育研究上の目的」も検証している。			
		新	理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・「建学の精神」 ・「大学の理念」 ・人材養成に関する目的・学生に修得させべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・学科会議議事録 ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート ・新入生アンケート	学科長の下、毎週学科会議が開催されており学部の各種委員会報告、また、学科教育に関する課題の協議が行われている。8月の夏季休暇中には春期各種デザイン教育の総括会議が開催された。3月には非常勤教員を含めた学科デザイン会議を毎年開催しており、今年度も開催する予定である。	A	責任主体を含めて今後検討する	

(3)教員・教員組織

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。		※1と同様	
		15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	教員組織の見直しはカリキュラム改訂が一つの目安であるが、27年度では新助教によるグローバル人材の確保が行われた。外国人教員については、今後全学、学部方針に基づいて行うこととなる。デザイン系非常勤講師については、適宜見直しを行っており、長期継続雇用は改善されつつある。	B	今後改善を図りたい	
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・講義要項 ・教員組織表 ・契約制雇用契約書				
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。		※1と同様	
		19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。		人間環境デザイン学科では、所属教員(任期制助教を含む)16名のうち教授は9名であり半数以上が教授である。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・教員採用の基本方針 ・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	・学部教員全体の年代比率は、 ～30歳:0.0%(0) 31～40歳:1.8%(1) 41～50歳:35.1%(20) 51～60歳:33.3%(19) 61歳～ :29.8%(17) となり、若干、年代に偏りがみられる。	B	カリキュラム、専門分野、定年制とも絡んで改善は困難	
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		人間環境デザイン学科では、空間デザインコース、生活環境デザインコース、プロダクトデザインコースの3領域に、それぞれの分野における高度な知識を持った専門家の育成のために適した専門性と経験をする教員を配置している。	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。		※1と同様	
3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。			
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。			

4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、「教員活動評価」制度の導入を進めており、平成27年度については2回目のトライアル実施を行う予定である。		※1と同様	
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
		新	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	学科長の下、適宜学科会議等により役割分担を明確にしている。検証プロセスも各担当からの発意により学科全体で討議している。	B	今後改善を検討する	

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	・「教育研究上の目的の公表等に関する規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を「教育研究上の目的の公表等に関する規程」に適切に定めている。		※1と同様	
		※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。			
	教育目標と学位授与方針との整合性	29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	教育目標に即してカリキュラム構成を行っているが、ディプロマポリシーは時代とともに変化しており、一部改訂が不十分な点もある。しかしながら、基本的には、建築、住宅、まちづくり、プロダクトデザイン、福祉機器までの分野を視野に、第一線で活躍すべきデザイナーあるいはデザインという世界の広がり可能性に対して深い理解と造詣を持ち、デザインと社会とを繋ぐ役割を担うべき社会人を育成するという教育目標を掲げ、この方針に基づく学修者に学位を授与している。 概ね学科の教育目標とディプロマ・ポリシー、修得すべき学習成果の明示が行われていると判断する。	A	全学若しくは学部及び学科内において適宜見直しを進める	
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。					
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	教育目標に即してカリキュラム構成を行っているが、ディプロマポリシーは時代とともに変化しており、一部改訂が不十分な点もある。しているが人間環境デザイン学科では、まちづくりからプロダクトデザインまでの分野を対象に、市場社会から福祉社会までを視野に入れ、第一線で活躍すべきデザイナーあるいはデザインという世界の広がり可能性に対して深い理解と造詣を持ち、デザインと社会とを繋ぐ役割を担うべき社会人を育成し、この方針に基づく学修者に学位を授与する。としており、人間環境デザイン学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整し		※1と同様	
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	教育目標に即してカリキュラム・ポリシーを設定しているが、カリキュラム・ポリシーも、全学の方針により変化しており、一部改訂が不十分な点もある。しかしながら、基本的には、建築、住宅、まちづくり、プロダクトデザイン、福祉機器までの分野を視野に、カリキュラム構成を行っており、必修、選択の区分、単位設定が行われている。	A	適宜見直しを行っており、平成27年度も新カリキュラムの編成に合わせて、必修、選択区分等の競技を数回重ねている。	平成29年新カリ
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。					
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「履修要覧」 ・ホームページ	「履修要覧」及びホームページにて公表している。		※1と同様	
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の教育研究上の目的や3つのポリシーも見直すこととしている。			
		新	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	教育目標、学位授与方針についての責任体制、手続き等については前述したものと同様、学科長の下、全教員参画の学科会議で十分な議論を行い決定している。但し学科長以下の明確な体制が明文化されているわけではない。 教育課程については、教育課程委員会からの協議内容により学科内で適宜協議を行っている。 平成27年度は新カリキュラム編成の検討にあたり、学科会議への諮問機関として新カリWGを設置し協議を重ねている。	B	・必要に応じて現在の学科会議体制でさらに協議を行う。	

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『授業時間割表』 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表	主要な授業科目はすべて開講している。 大凡の配当学年を設定するとともに、科目によっては、学年の自由度、履修に必要な条件等を記載している。概ね体系化されていると認められる。 「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。概ね理解されていると認められる。専門教育に関わる各種資格取得に対する履修要件も繰り返し説明している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。					
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。					
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表 ・該当科目シラバス	教育課程は、カリキュラム・ポリシーに則り、学習成果の修得につながるものとなっていると認められる。 本学及び学部のカリキュラム・ポリシーに従って、「学士教育課程に相応しい教育内容」を提供していると認められる。 また、専門教育の導入についても、1年次に「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」及び「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」と「同Ⅱ」を必修として配置し、学科デザイン教育の導入としている。 高大連携については等々実施していないが、推薦入試で入学した学生を対象に事前学習の課題を出し、添削・指導を実施している。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。					
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。					
		新	教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・教育課程委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	学科長の下、教育課程については、教育課程委員からの協提案、各教員からの発意により学科内で適宜審議し、適切な対応を行っている。	A		

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・教育課程表 ・東洋大学ホームページ ・各科目シラバス	デザイン演習等実践の力量形成が求められる分野・領域については、非常勤教員を含むデザイン会議に置いて、毎年協議しながら授業形態を工夫し運営している。デザイン演習以外の他の科目も各教員が教員評価等を基に工夫して対応している。学生参加を促す授業工夫も同様である。但し参加の有無は学生により大きく差異が見られる。 実験工房、制作工房は全学生に開放されており、自主活動ができる環境となっている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。					
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。					
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※ 44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。					
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。 また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・教育課程表	全学部・学科において、大学設置基準に沿って、各科目の単位数及び授業時間数を設定している。			
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。					
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。					
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・FD推進センター活動報告書	FD推進センター及びFD推進委員会において、組織的な研修、研究を定期的に実施している。また、各学部においても独自のFD活動が増加、充実してきており、その成果が毎年、「FD推進センター活動報告書」にまとめられている。			
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。					
		新	教育内容・方法等の改善を図るための、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規程 ・東洋大学ライフデザイン学部各種委員会規程 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・東洋大学ライフデザイン学部履修要覧	学科長の下、特に全学科的な取り組みとして年2回のデザイン会議、毎週の学科会議を設けている。但し明確な組織体制を設けているわけではない。 検証作業の中では毎年のように同じ課題もあり、教育改善の成果は簡単に判断できないのが実情である。 教員の授業プロセスは十分であると認められるが、科目相互の関係性についてはさらに検討を要する。	A	・さらなる改善を適切に行う。	

「成果」

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	学科独自の評価指標を開発してはいない。 各教員単位ではあるが授業評価アンケートにより、教育内容・方法の改善に努めている。但し学生側の評価の正当性、適切性についてはさらに検討を要する。 就職先の評価については特に設けていないが、毎年度卒業生を含めて就職相談会をセットしており、その場で学生時代の授業評価を確認することができる。体系的な対応ではなく、参加学生への任意アンケートによる。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。					
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	全学部・学科において、卒業要件を「履修要覧」に明示している。	A	※1と同様	
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー ・学科 卒業要件 ・ライフデザイン学部教授会議事録	卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。			
		新	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・東洋大学ライフデザイン学部教授会規定 ・東洋大学ホームページ ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科 卒業要件	卒業要件、学位授与については、学科会議で最終判断し、教授会の承認を得ており、適切に学位授与を行っていると思われる。	A		

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・東洋大学ホームページ ・学科 アドミッション・ポリシー	大学ホームページ、履修要覧等で教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準を明らかにしている。			
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ ・「東洋大学アドミッション・ポリシー」	ホームページにてアドミッション・ポリシーを公表している。また、指定校推薦を依頼している高等学校等には、全学科のアドミッション・ポリシーを冊子化にまとめて送付している。		※1と同様	
2)学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・「東洋大学入試情報」	ホームページにて、入試種別別に、募集人員、選考方法等を公表している。			
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・学科会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	各方式とも、募集人員、選考方法を、「入試ナビ」および東洋大学入試サイトにて受験生に明示し、各入試方式に従って適切な先行を行っている。 但し、中には入学後受験時の学科選択に置いて適切な判断が不足したと思われるケースがみられるため、さらなる広報が必要と思われる。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。					
		64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。		※1と同様	
		※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学者数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入者数の適正化に努めている。		※1と同様	
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・学科会議議事録	学部入試委員会において、毎年度、前年度等の入学者数策定の分析を行い、教授会に報告している。また学科会議においても毎年検討している。 近年では定員過剰、未充足に関わる大きな問題は認められない。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。		※1と同様	
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部提案している。これに基づき、各学科入試委員会を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			
	新		学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・学科会議議事録 ・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	左記各種会議に置いて適正かつ公平な審議を行っており、大きな問題は生じていない。	A		

(11)その他

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・哲学教育(東洋大学ホームページ) ・東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう―考えるに際して―」 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ライフデザイン学部講義要項	1年時のデザイン演習のオリエンテーション時点から、将来デザイナー若しくはデザインに関わる職種のみならずすべての進路に置いて、本学科の学ぶべきスタンスを説明している。すなわち、人間を主体とし、良好な環境形成やデザイン創作の可能性と限界、それらを考察する能力、方法について教授している。同時に人々の考え方の多様性、解の多様性についても教授している。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ニュージーランド研修実施要項 ・中国現場研修実施要項 ・ライフデザイン学部教授会議議事録 ・学科会議議事録 ・提携先との協定書	各科目の中でアジアや欧米諸国の建築、住居、環境デザインについて適宜講義している。各教員の海外研究に置いても授業に有益な資料や情報を入力し、教育、研究活動に反映している。ゼミ活動の中では海外ゼミを実施しているところもある。また、教員の海外研究発表も適宜行われている。平成27年度では英語による授業は行われていない。個別教員に置いては、学部協定校である北京理工大学、北方工业大学との研究交流、スウェーデンストックホルム工科大学、フランス、イタリア、シンガポールの高等教育研究機関との共同研究が活発に行われている。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・ライフデザイン学履修要項 ・学科会議議事録	3年秋期からのプレゼミ活動、4年生のゼミ活動に置いては、就職相談会を適宜開催してきた。授業や研究室活動に置いては、行政、企業、NPOの方々をお招きして特別講義や共同研究、演習事業が行われている。平成27年度は10周年記念事業の一環として多くの学外関係者をゲストに招講した。	B	さらなる改善を進める	
2) 学部・学科独自の評価項目①	教育成果の公表	100	卒業研究(論文、制作)、授業成果の公開	・学科会議議事録 ・開催ポスター	人間環境デザイン学科では開設以来毎年、卒業研究、卒業制作、3年生のデザイン演習授業、中期目標・計画プロジェクトの成果を学外で公開し(作品展等)、授業成果の到達点、学生の修得度について、学外評価と検証の機会を有してきた。	B	今後も継続すべきである	